

本日、民青、ゼミ代を論理で粉砕し、経済学部にも集おう、

大学が居たい派を

解体せよ!

経済学部の全学反論者

校動隊併駐体制——市大アウシビツツ情況は市大の全学での先進的学友の奮闘と
した抗議にもなわわらず、敵として存在し、その中で、国家権力と共闘した、大学
当局と、野合し、後進的学友——右翼、大野、居たい、派に依拠した経済学部
総会なるものをネッチあげた、日共—民青集団は、ハレニチにも、自らの論理の破
産をインディシ、再びその野望を大衆の前に明らかにしている。

わいのいは、ゼミ代——学生総会のカマン性を二二二明らかたすること、本
日の、彼らのゼミ代を論理で粉砕するであろう。

彼らのいわゆる「形式論理」は、なにやらんども、「正式な」「公正な」組織—
自治会を作ることだと言つ。彼らのブルジョア民主主義的価値観なりすれば、それ
は、さういふ、当然の論理である。しかしながらである。彼らは、同様に、ブルジ
ョア民主主義の本質であるところの「多数者による少数者の圧殺」をも志向するの
である。民青勢力の相対的に強い学部——商、経、法—を二二二すること、斗争能力
イテ強し許してはならない。大外大の二二二、民青管理大学としてはならない。

現在の、客観的状況、すなわち、大学当局の徹底的屠道り—大阪市立フアンシヨ
大学の構想—を二二二、校動隊併駐体制を一切、全共斗におしつけ、彼ら自身に向
わいて、基本的な勢力なり、おれが斗争の由で、大学改革をどう推進するの
かという問題を真意的に何ら明らかにできずして、授業用と、全共斗連文に狂奔
して二二二である。

彼らの方論によれば、全共斗を退けず二二二によって、校動隊は介入しなくなり
として、民主化は、全共斗を退け出した時にはじめて、向かっている。——という論理は
展開に集約されている。しかしながら、10、4以降、全共斗は瓦解して、その際向
なり、彼らの言う民主化は、始まったのである。

おれが斗争の由に位置づけられた大学民主化の論理は決定的に欠落している彼らにと
つて、彼らの言う「民主化」とは、民青以外のセクト、すべての反民青勢力を退けし
「民青の、民青による、民青のための」大学化をいなりである。それは、
11、5学部学生総会の彼のシエウタイと二二二も端的にものたつて二二二。

全共斗の根柢的向いかけを一切、黙殺し、既成の秩序におおし二二二とするならば
それは、大学自身のブルジョア化に輪をかけることになり二二二。

大学「民主化」——大学革命は、全階級斗争の一環として二二二に打ち出ている二二二で、
認識しなわたり、結し合、路線は、国家権力と共闘せよと二二二な二二二。
わいのいは、全共斗として、熱烈に、二二二は、
自らのものとして二二二の、二二二を二二二する。

——市大村也、三回生決議——

- 民青の私設ゼミ代——学生総会にギマン的收拾策動粉砕
- 校動隊併駐体制反対
- 全学、連日闘文を實現せよ
- 現時と来までの授業用開反刊

山崎せしむ有志
吉村せしむ有志